No.55

ΑΛΕΞΑΝΔΡΕΙΑ

恵泉女学園大学図書館報

特集　平和を想う

私が平和を想うとき

大日向　雅美

（恵泉女学園大学学長）

『ピッピの生みの親
アストリッド・
リンドグレーン』
三瓶恵子著
1999年 岩波書店

私が平和を想う時、よく思い出すのは、『長くつ下のピッピ』の作者で知られるアストリッド・リンドグレーン（Astrid Lindgren）さんが、1978年に「ドイツ書店協会平和賞」を受賞したときのスピーチ“Never Violence”です。

リンドグレーンさんがある高齢の女性から聞いた話として語った一節を引用します。

・・・その女性がまだ若い母親だった頃、しつけのためには子どもを叩く必要があるという話を耳にしました。ある日、幼い息子が罰に値すると思えることをしたので、女性は「森に行って、お母さんがお前を叩くのに使う樺の枝を見つけてきなさい」と言い渡しました。

男の子はなかなか戻ってきませんでしたが、ついに泣きながら帰ってきて、こう言いました。

「樺の枝は見つからなかったけど、石を持ってきたよ。これを僕にぶつければいいよ」

そのとき突然、母親は息子の視点から状況が見えるようになり、涙があふれてきました。男の子はきっとこう思ったのでしょう。

「お母さんは僕を傷つけたいのだから、石だって使うだろう」

母親は息子を抱きしめ、２人でしばらく泣きました。そして、台所の棚の上に石を置き、いつもそれを見て、このとき立てた一生の誓いを思い出しました。その誓いとは、決して暴力を振るわないということでした。・・・

（『子供に対する暴力のない社会をめざして～体罰を廃止したスウェーデン35年の歩み～』
Save the Children 2014より引用）

（次ページへ続く）

特集　平和を想う

私が平和を想うとき　大日向 雅美

図書館で読めるリンドグレーンの世界

絵本で想う「平和」

「Peace Library」を知っていますか？

（前ページより続く）

このスピーチは、子どもの人権を守る世界的ムーブメントへと繋がっていきました。その一つが、スピーチの翌年1979年に、スウェーデンが子どもへの体罰と屈辱的な扱いの禁止を盛り込んだ「親子法改正案」をほぼ満場一致で国会で可決し、世界で初めて体罰を禁止した国としてひろく大きなインパクトを与えたことです。

平和な社会とは戦争や紛争のない社会であることは言うまでもないことですが、そのためにもまず家庭の中に平和を、とリンドグレーンさんは強く願ったのです。

子どもは発達途上の存在です。社会のルールや人を大切にするマナーを学ぶ必要はあります。ときに毅然とした叱責やいさめも必要でしょう。しかし、その根底に私たち大人が子どもを人として尊重する理念をどれだけ真摯に覚え、実行しているかが問われなければならないと思います。『長くつ下のピッピ』をはじめとしたリンドグレーンさんの一連の作品集には、子どもの人権を守ろうとする確かな哲学とそれが平和に繋がることへの切なる願いがこめられています。

図書館で読める「リンドクレーン」の世界

少女サラとリンドグレーンが、20年間以上交わした手紙は80通以上。思春期の「生きにくさ」も抱える少女へ宛てた共感と愛情のこもったメッセージは、時の隔たりを超え、現代の若い読者の心も励まし力づけることでしょう。

『リンドグレーンと少女サラ：秘密の往復書簡』
アストリッド・リンドグレーン, サラ・シュワルト著
石井登志子訳　岩波書店　2015.3

『長くつ下のピッピ』シリーズ

『やかまし村』シリーズ

『名探偵カッレくん』シリーズ

これらの作品は全て『岩波少年文庫』に収録されています。

『さすらいの孤児ラスムス』

『山賊のむすめローニャ』

『ミオよ わたしのミオ』

「わたしはナガサキ」
ナガサキの街が語る
原爆と平和への祈り。

『あの夏の日』
葉祥明著　長崎市英訳
自由国民社　2000年

『ひろしまのピカ』 丸木俊著
小峰書店　1980年

それは一人の女性が心に閉じ込めて
いた悲しい記憶。「原爆の図」の
画家が描く「ひろしまのピカ」。

東京大空襲の夜の
家族の運命に息が詰まる。

『東京がもえた夜：アニメ東京大空襲』
虫プロダクション作画
平和のアトリエ　1990年

絵本で想う「平和」

こどもにとって戦争とは？
沖縄の激戦地をさまよう
「りゅう子」が問いかける
「なぜ？」

『りゅう子の白い旗：
沖縄いくさものがたり』
新川明文　儀間比呂志版画
築地書館　1985年

連れ去られた
少年の行方を
追ってみると・・・・。
少女と「ホロコースト」
との密かな闘い。

『ローズ・ブランチュ』
クリストフ・ガッラス, ロベルト・イノセンティ文
ロベルト・イノセンティ絵
ロニー・アレキサンダー、岩倉務共訳
平和のアトリエ　1990年

作者はウクライナの
新進絵本作家。
日本語版はロシアによる
ウクライナ侵攻の年に
出版されました。

『戦争が町にやってくる』
ロマナ・ロマニーシン,
アンドリー・レシヴ共著
金原瑞人訳
ブロンズ新社　2022年

第一次世界大戦中の
「本当にあった話」

『戦争をやめた人たち：
1914年のクリスマス休戦』
鈴木まもる著
あすなろ書房　2022年

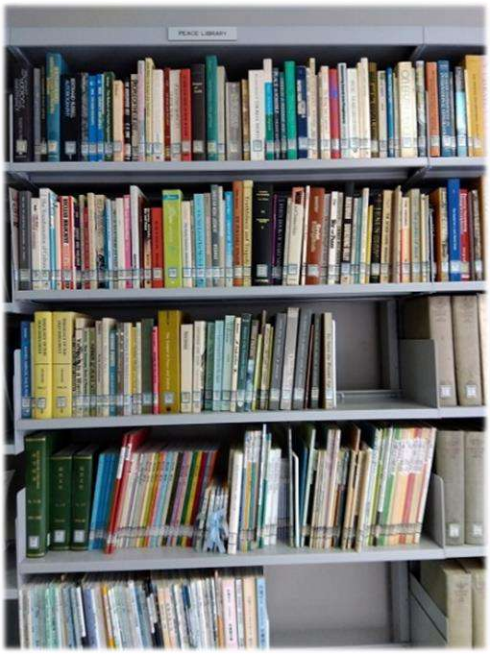
図書館の本を
戦火から守った
イラクの図書館員の
行動力に感動。
実話です。

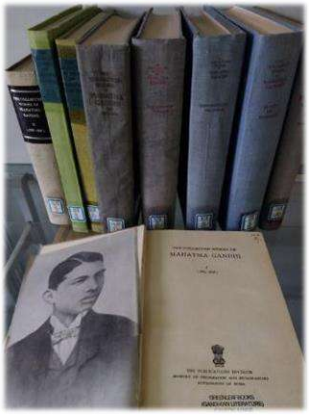
『バスラの図書館員：
イラクで本当にあった話』
ジャネット・ウィンター著 長田弘訳
晶文社　2006年

☑「Peace Library」を知っていますか？

「Peace Library」とは、創立者河井 道の米国の友人達が、学園の支援のために設立した団体「ミチ・カワイ・クリスチャン・フェロシップ」より大学図書館に寄贈された平和関係の洋書のコレクションです。コレクションを構成する図書のテーマは「平和」のみならず「非暴力」「公民権運動」「貧困」「環境問題」など幅広く網羅されています。 このコレクションには「非暴力運動の父」マハトマ・ガンディーの全集（全100巻）やレイチェル・カーソンの『沈黙の春』（*Silent spring* by Rachel Carson Boston：Houghton Mifflin, 1987）なども含まれています。

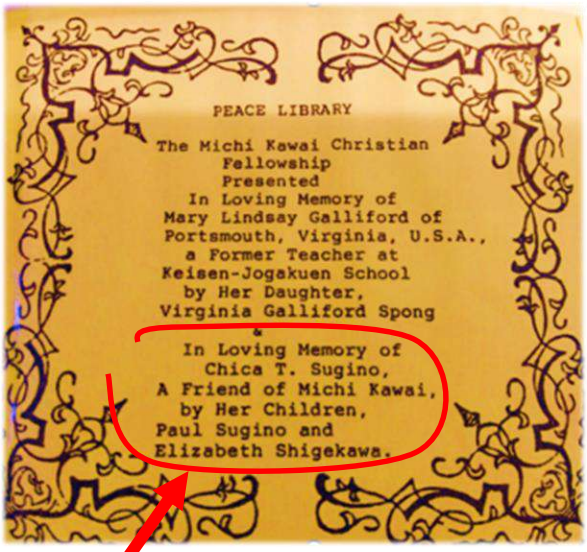
「Peace Library」の書架
（第二閲覧室の廊下にあります）

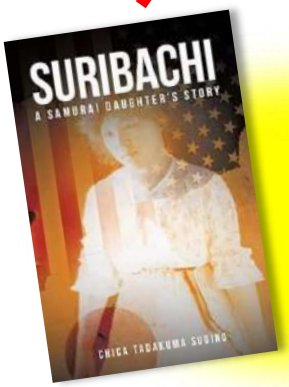




マハトマ・ガンディーの全集（一部）

本に貼られている蔵書票
（恵泉の教員や河井 道の友人として来日された方々の名前が記念として記されています）





Suribachi：
A Samurai Daughter's Story
By Chica Tadakuma Sugino
Covenant Books, 2019

蔵書票に河井 道の友人として記されている、Chica Tadakuma Sugino氏の自伝。
子ども時代に家族と渡米した女性の波乱に富む人生。河井 道との出会いも、描かれている。

恵泉女学園大学図書館報ΑΛΕΞΑΝΔΡΕΙΑ（アレキサンドレイア）no.55　2025.4
発行　恵泉女学園大学図書館　〒206-8586　東京都多摩市南野2-10-1　Tel. 042-376-8441/Fax.042-376-8336